

秋の想い

統計課・人口労働グループ

高崎武夫



秋の気配を感じると、私は毎年胸の鼓動が高なってくる。それが何に由来するのか、はっきりとはわからないが、秋という季節は何をするにもよい時である。スポーツの秋、読書の秋、味覚の秋、物思いにふける秋、芸術の秋など。

今、私は千波湖畔の茨城県近代美術館のラウンジにきている。モネやルノワールの絵に魅せられた後、コーヒーを飲みながら見渡す千波湖の眺望は、私に二重の思いを感じさせる。

就職のため、水戸に引越してきてから、もうすぐ2年の歳月が過ぎ去る。物事をゆったりと考える余裕とか、不安感を抱いている暇もないほど、機械のように無我夢中で生きてきた昨年。でも、学生時代に抱き続けてきた若き情熱や、自分なりに思考をめぐらした倫理感や使命感はずいぶんと消え失せてしまったような気がする。時の過ぎゆくままに毎日を送り、その時その時のいま現在をいかに生きるかが大切なのを忘れていた。時間の感覚は、主観的なものである。時間はただ過ぎ去るものではなく、自分で創り出し、^{とく}永えにやってくるものである。自分の中で乾きを感じながらも、唇には失ってはいけない叫びがある。傷だらけ・どろみれになっても心を燃えたぎらす夢はいつまでも失ってはいけないと。

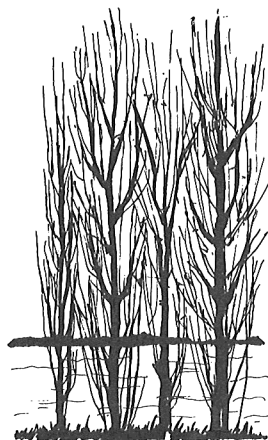
宵の明星に向かって駆けぬけ、届くはずもないのに、腕を伸ばしてつかみとろうとしたあの頃。「レモンは初恋の味」とは私の敬愛する先輩から教えられた言葉ではあるが、秋はレモンがより一層甘酸っぱく感じる。相手には路傍の石に過ぎな

かった私の存在も、私自身には心の支えにもなった彼女にとうとう自分の気持ちをうちあげられな

いままになっている。自分が弱かったからか、それとも恋愛を解する心がなかったからだろうか？。そう言えば、あの頃から比べると、いろいろな人との出会いがずいぶんと多くなった。ヨコ社会からタテ社会へ、そして現在はクロス社会へ。

人との出会い・語らいは、人を豊かにするものである。時には思い悩んだり、傷ついたりもするが、今の私にとって、人との出会いは、何よりも財産である。

社会が大衆化し、人々はそれなりに豊かである。休日や平日の夕暮れに、街頭を歩く人々は、みな着飾り、楽しい表情を呈している。私は、ロマンを追い求め、今日もこの街で生きていくのである。



【新着資料案内】

この資料は、昭和63年7月中に到着した主なものです。ご利用下さい。
閲覧室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係		茨城県関係	
昭和63年版 交通安全白書	総務庁	昭和63年度 環境局の概要	環境管理課
消費者物価指数年報 昭和62年	〃	若い力を育てよう	自治研修所
I 市区町村別特性図	〃	昭和62年度 事業計画の概要	県西地方総合事務所
II 大都市への通学通勤人口図	〃	I B A R A K I	国際交流課
長期遡及推計国民経済計算報告	経済企画庁	昭和62年 茨城県消費実態調査結果報告書	統計課
昭和61年 国民生活基礎調査	厚生省	昭和61年 事業所統計調査結果の概要	〃
昭和62年度 農業白書 附属統計表	農林水産省	昭和62年度 婦人保護事業の概要	県立若葉寮
昭和62年 雑貨統計年報	通商産業省	茨城わくわくプラン 高齢化社会への対応	高齢福祉課
昭和62年 砕石統計年報	〃	昭和62年度 一年のあゆみ	消費生活センター
昭和62年 機械統計年報	〃	昭和62年 人口動態統計の概況	医務課
昭和61年 工業統計表(市区町村編)	〃	昭和61年度 業務概要	谷田部保健所
昭和63年版 通商白書	〃	昭和62年度 業務概要	〃
昭和61年版 民鉄統計年報	運輸省	昭和62年度 業務概要	土浦保健所
昭和62年版 図でみる運輸白書	〃	茨城県公衆衛生獣医師会調査研究資料集	環境衛生課
通信白書 昭和63年版	郵政省	(昭和51年~62年)	〃
昭和62年 労働経済の分析	労働省	その1 狂犬病予防関係食品衛生編	〃
労働白書 昭和63年版	〃	その2 と畜場・と畜検査関係編	〃
昭和62年 全国道府県市区町村別面積調	建設省	中小企業金融の契	商業振興課
		昭和63年版	計量検定所
		昭和62年度 業務概要	県立三和産業技術
		昭和63年度 事業概要	専門学校
		人も企業も学習の時代	職業能力開発課
		昭和62年 地方卸売市場年報	流通園芸課
		昭和62年度 試験成績書	鹿島地帯特産指導所
		県内市町村関係	
		茨城県養鶏試験場年報 昭和62年度	養鶏試験場
		茨城県大家畜経営センター年報 昭和62年度	大家畜経営センター
		昭和62年度 保護水面管理事業調査報告書	漁政課
		霞ヶ浦北浦の水産業	〃
		道路現況調書 昭和61年4月1日現在	道路維持課
		国際居住年記念特集 1987	住宅課
		給与事務の手引 昭和63年7月	教職員第一課
		昭和63年度 図書館概要	県立図書館
		都道府県関係	
		水戸市婦人行政推進計画	水戸市
		活力ある文化都市	〃
		-水戸市民ガイドブック'87-	〃
		昭和60年度 市民所得	〃
		日立市の統計 1988	日立市
		常陸太田	常陸太田市
		統計きたいばらき 昭和63年版	北茨城市
		取手市史余録 創刊号~第6号	取手市
		取手市史資料目録 第三集~第十集	〃
		(但し五集は欠)	〃
		取手市史民俗編 I~III	〃
		とよさと'85 合併30周年記念要覧	豊里町
		東海村のすがた	東海村
		昭和62年統計書	金砂郷村
		おがわ要覧 緒川村合併30周年記念	緒川村
		旭村総合計画	旭村
		若栗寄井館遺跡 1988	阿見町
		昭和61年度 道政に関する世論調査	北海道広聴課
		昭和60年度 岩手県の県民所得	岩手県統計調査課
		昭和62年版 県民経済計算年報	宮城県統計課
		県民経済計算 昭和60年度	山形県統計調査課
		第102回 福島県統計年鑑	福島県統計調査課
		昭和62年 栃木県消費者物価指数年報	栃木県統計課
		昭和62年度調査 群馬県法人企業経済	群馬県統計課
		調査結果概要	〃
		昭和59年度 埼玉の市町村民所得	埼玉県統計課
		昭和60年度 県民所得統計	千葉県統計課
		昭和60年度 都民所得統計年報	東京都統計調査課
		昭和61年度 県民所得統計速報	神奈川県統計課
		昭和60年度 新潟県の県民所得	新潟県統計課
		富山県 勢要覧 昭和63年版	富山県統計課
		昭和61年 石川県統計書	石川県統計情報課
		昭和60年度 県民所得統計報告	山梨県統計調査課

経 済 動 向

国 内 の 動 き

● 企業の合併一段と活発化

公正取引委員会がまとめた62年度の合併等届け出件数は前年度比10.8%増の2,309件と過去最高を記録し、今年度も高水準で推移している。

内訳は合併1,223件(前年度比6.6%増)、営業権譲り受け1,816件(同16.0%増)となった。このうち公取委が公表しているのは、合併後の総資産が300億円以上のケースで件数は前年度より16.3%増え114件だった。これをタイプ別に

分類すると、分離子会社の吸収(33件)、製造・販売会社統合(9件)、地域販売会社統合(7件)を合わせたグループ内再編成が全体の4割強を占める。こうした傾向について公取委は「石油ショック以降、経営の効率化のため製販の分離がブームとなったが、事業基盤の固まった子会社などを合併して親会社に利益をとり込み、事業を再構築しようとする動きが目立つ。」と分析している。(日経 8月2日付)

● 景気拡大で雇用回復

労働省は8日、昨年1年間の就職、離職など労働力の移動状況をまとめた「62年雇用動向調査結果(速報)」を発表した。それによると、62年の就業者数は円高不況の影響で前年比6.3%と減少した61年のそれより2.2%増加し400万人となった。

62年上期の就職者が251万人、前年同期比0.4%減だったのに対し、下期は149万人、同6.8%の増加となったため。

内需拡大による景気の急速な回復に対応するため、昨年

後半に入って企業がそれまでの人員合理化から、一転して雇用者を増やし始めた姿が浮き彫りになっている。

産業別にみると、卸売・小売業・飲食店(前年比13.6%増)サービス業(前年比2.2%増)など第3次産業は増加している。また、製造業は前年比5.4%と減少したが、上期が前年同期比13.0%減少なのに対し、下期は同9.0%増加に転じた。(日経 8月9日付)

● 耐久財購入世帯比率、22品目で最高水準

経済企画庁は11日、6月に実施した消費動向調査の結果を発表した。4～6月に耐久消費財を購入した世帯の全世帯に対する割合は、乗用車が6.8%、自転車が6.8%、電気洗濯機が4.4%などで、調査38品目のうち22品目は57年の調査開始以来最高、あるいは最高と同水準の比率を記録した。

購入割合は、38品目中31品目が前年同期を上回り、下回

ったのはワープロだけ。乗用車、自転車、洗濯機、ラジカセ、ベッド、電子レンジ、CDプレーヤーなどが調査開始以来最高の比率となった。乗用車は新車、テレビは音声多重式、洗濯機は全自動というように、各品目とも高級化、多機能化した商品が購入の中心。

7～9月の購入計画も積極的で、耐久消費財ブームが続いていることを示している。(日経 8月12日付)

県 内 の 動 き

● 常磐線の今夏の客数伸びる

JR東日本水戸支社が19日まとめた今夏の旅客輸送概況によると、梅雨明けの遅れで海水浴関係は不振だったものの、月遅れお盆前後の利用が活発だったため、トータルでは上り、下りとも前年実績を6～8%上回り、好調だった。

調査期間は7月23日から8月18日までの約1ヶ月間で、

常磐線の我孫子―土浦間の利用客数を調べた。期間中の上りの利用客数は特急、普通の合計で1,891,900人(前年比8.4%増)、下りの利用客数は同1,962,500人(同6.0%増)で前年実績を上回った。海水浴用の臨時列車の利用客数は前年比5.1%減となったが、お盆の帰省客の利用が多かったものと思われる。(日経 8月20日付)

● 7月の電力需要伸びず

東京電力茨城支店は29日、7月の電力需要実績を発表した。

総販売電力量は12億5802KW時で、前年同月比3.3%増。計量期間が昨年より約1.4日長く、日数修正後は実質1.1%増とほぼ横ばい。一般家庭中心の電灯需要は9.4%増(修

正後は4.4%増)、電力需要は2.0%増(同0.3%増)。産業用の大口電力は2.7%増どまりだった。

要因として考えられることは、気温が例年より低く、冷房用需要が伸びなやんだほか、大手企業の自家発電設備整備が進んだことなどが考えられる。(日経 8月30日付)